



## 【HSBC】知っているようで、知らない外資系金融機関まとめ<11>



外資系金融機関を知るシリーズの第11回は、香港上海銀行を中核とする世界的な金融グループの英HSBCです。HSBCは香港上海銀行の略称 (The Hongkong and Shanghai Banking Corporation) に由来します。その行名が示す通り、英國植民地下の香港を発祥とし、英スタンダードチャータード銀行、中国銀行（香港）と並ぶ香港ドルの3大発券銀行の一つです。

日本とのかかわりは明治維新直前の1866（慶応2）年に横浜支店を開設したことに始まり、近代国家への仲間入りを目指す日本を貿易や外国為替など国際金融面からサポートしてきた歴史があります。

**香港上海銀行、近代化を目指す明治期の日本で重要な役割担う  
日本における本拠（東京・日本橋）**

香港上海銀行は英國の植民地政策の一翼を担う国策銀行として1865年に香港を本店、英の共同租界があった清の上海に支店を置き、開業しました。その翌年に早くも日本に進出し、横浜に支店を設けたわけです。その後、神戸、大阪、長崎にも支店網を広げ、明治期に日本で最も存在感を発揮した外国銀行といわれています。

1871年に新貨条例が制定され、「円」が誕生した際、金銀通貨の造幣に協力したのはほかならぬ香港上海銀行。日本で初めての外為専門銀行として1880年発足した横浜正金銀行（後の東京銀行。現在の三菱UFJ銀行）が模範としたのも同行だったとされています。また、日露戦争の戦費調達にかかる外債発行では同行に頼るところが大きかったといいます。第2次大戦後は1947年に東京と神戸で営業をいち早く再開しました。

すでに150年を超える歴史を持つ香港上海銀行ですが、1991年に、その持ち株会社としてHSBCホールディングスをロンドンに置きました。傘下の香港上海銀行も1993年に本部をロンドンに移しました。1997年に予定されていた香港の中国返還をにらんだ動きでした。香港上海銀行は欧州最大の金融機関として、アジア・太平洋、南北アメリカ、中東、アフリカにまたがる70近い国・地域に約3900拠点を持ち、総資産は2兆4920億ドル（2017年6月末）。

**銀行、証券、資産運用の3社が活動**

日本国内では香港上海銀行（東京・大阪支店）、HSBC証券（東京支店）、HSBC投信（日本法人）の3社で活動しており、東京・日本橋に本拠地を置いています。法人向け業務や投資銀行業務を主体とし、現在、個人向け業務は手がけていません。具体的には、資産運用、貿易サービス、プロジェクト・輸出ファイナンス、キャッシュマネジメント、M&A（企業の合併・買収）、為替、債券・資本市場、証券関連サービス、カストディサービス（証券保護預かり）など、多岐にわたる金融サービスを提供しています。 

**プライベートバンキングから撤退**

&個人向け業務については、富裕層を対象としてプライベートバンキングに乗り出しましたが、わずか4年で撤退した苦い過去があります。2012年に、都内（丸の内、赤坂、広尾）や横浜、名古屋、大阪にあった6店舗（HSBCプレミア）をすべて閉鎖し、プライベートバンキングの世界的大手、クレ

ディ・スイス（スイス）に事業を売却したのです。1400兆円にのぼる日本の個人金融資産をターゲットにしたもの、リーマンショックによる金融危機と時期が重なるという不運もありました。

M&Aでは物足りなさが…

投資銀行業務の一つ、日本企業が関連するM&Aのアドバイザー業務について、とくに目立つような実績はないようです。調査会社トムソン・ロイターがまとめている「日本企業関連M&A市場リーグテーブル」（上位25社）の過去5年をみても、HSBCの名前は見当たらず、圏外となっています。

ライバル関係にある同じく英国のバークレイズはしばしば名前を連ねています。HSBCのこれまでの日本とのかかわりの深さを考えれば、物足りなさも覚えます。M&Aの分野で存在感を高めていくことが今後の課題といえるでしょう。

photo by JULIAN MASON：香港上海銀行のシンボルであるライオン像  
文：M&A Online編集部